

日本電子出版協会 平成30年度第33回通常総会
平成29年度事業報告書

1. 会員の概況

平成30年2月21日における会員社総数は法人125社、特別会員12社、特別個人会員9名である。

2. 事業の概況および成果

- 1) 一般社団法人日本電子出版協会（JEPA）は、日本の電子出版を普及・発展させることを目的として設立されました。出版社、電気メーカー、ソフトハウス、印刷会社など幅広い業界の会員社が参加し活動を行っています。

当協会の活動は、役員会、定例会、各種委員会が中心となっており、電子出版発展のための研究、セミナー開催、技術仕様の標準化、業界への提言、会員間の情報交換やビジネス促進などを行っています。現在の主な委員会は、プラットフォーム委員会、ビジネス研究委員会、レファレンス委員会、電子図書館委員会、著作権委員会などがあり、積極的に活動しています。

委員会へは、会員社であれば誰でも参加することができ、それぞれの業務や関心領域に合わせて選択可能です。これまでに、マルチメディア出版研究委員会、EPUB研究会やTTS研究会など時代の変化に合わせて多くの活動を行って参りました。

現在活動している専門委員会は7委員会です。各委員会の活動内容は下記の通りです。①**定例会運営委員会**：タイムリーなテーマの定例会の企画・開催を中心に会員に情報獲得機会を提供する。②**広報委員会**：JEPAの活動を内外に伝える。③**プラットフォーム委員会**：各種プラットフォームの調査、紹介の他、TTS研究会、文字セット、電子教科書、eラーニングなどの課題研究を行うAd hocな勉強会がある。④**著作権委員会**：電子出版に関わる著作権の研究と関連知識の普及を図る。⑤**ビジネス研究委員会**：電子出版に関わる技術・情報の幅広い収集やその交換等を通して、電子出版ビジネスの効率的な推進方法を研究する。⑥**レファレンス委員会**：辞書およびレファレンス資料の電子化の標準化などを研究する。⑦**電子図書館委員会**：世界的にも動き出した電子図書館の仕組みや運営方法を出版ビジネスとの関わりからの視点から検討する、があり、電子出版環境改善に取り組んでいる。

- 2) 電子出版市場は、ICTを生かした辞書、法律、医学、学習教材などの知識サービス系は堅調なもの、それ以外の学術系は伸びていない。それでもコミックやライトノベルを中心に2千億円の市場に育った。
- 3) 平成29年度におけるJEPAの事業の成果は、詳しくは各委員会の活動報告に示すが、委員会の開催は総計50回を超え、研究と共にそれぞれの活動領域にふさわしい各種セミナーを開催した。開催したセミナーは24回、毎回100名を超える参加があり、参加者は延べ3000名を越えた。

3. 平成29年度 各専門委員会活動報告（別紙）

(別紙)

平成29年度 各専門委員会活動報告

定例会運営委員会 2017年度事業報告

1. セミナー実績

平成29年度、定例会委員会では以下の点を方針とし、11回のセミナーを実施しました。

- ・ バランスを意識したテーマ設定
- ・ 講演という形に特にこだわらず柔軟な形式を検討
- ・ 講師・会員社同士の情報交換、ネットワーク作りに資する機会の設定

テーマにより参加者は約40～120名と幅がありましたが、定番の人気テーマに加え、広く関心の高いタイムリーな内容から、他では聞くことができない専門性の高い内容まで、テーマにバリエーションを持たせたことの結果と考えています。

一方で、セミナー形式の工夫や参加者のネットワークづくりの機会創出については、まだ工夫できる余地が残されていると考えますので、次年度の課題としてまいります。

- 2017/1/20 2016年の電子出版関連ニュースと、どうなる2017年
- ・ 鷹野凌 (フリーライター・NPO 法人日本独立作家同盟 理事長・実践女子短期大学非常勤講師)
 - ・ 参加者数：104名 (JEPA 会員：75名、非会員：26名、取材・招待：3名)
 - ・ セミナー収入：78,000円 (26名 x 3,000円)
 - ・ 会場：竹橋・(株)メディアドゥ・セミナールーム

- 2017/4/21 検索の新地平、読書の未来
- ・ NII 高野明彦教授
 - ・ 参加者計：73 (会員：59、非会員：13、招待：1)
 - ・ セミナー収入：39,000円 (3,000円 x 13名)

- 2017/5/25 インプレス R&D：出版ワークフローのデジタル化/見える化
- ・ 井芹 昌信 氏 インプレス R&D 代表取締役社長、JEPA 理事
 - ・ 山下 良蔵 氏 インプレス R&D、元アスキー 技師長
 - ・ 参加者計：81 (会員：56、非会員：23、招待・取材：2)
 - ・ セミナー収入：69,000円 (3,000円 x 23名)

- 2017/6/23 モリサワ：クラウド対応レイアウトエンジン「LayoutSquare」
～デジタル・トランスフォーメーションが進む時代に、目指す未来～
- ・ 村山浩司氏 株式会社モリサワ プリンティング事業部ユーザサポート部サポートセンター一課
 - ・ 参加者計：38 (会員：29、非会員：5、招待：4)
 - ・ セミナー収入：15,000円 (3,000円 x 5名)

- 2017/7/13 米国電子出版事情 2017
- ・ 辻本英二氏 デジタルタグポート株式会社 代表
 - ・ 参加者計：81 (会員：63、非会員：17、招待・取材：1)
 - ・ セミナー収入：51,000円 (3,000円 x 17名)

- 2017/7/20 デジタル時代の明治20年問題
- ・ 橋口侯之介氏 神田・誠心堂書店店主
 - ・ 参加者計：60 (会員：49、非会員：11)
 - ・ セミナー収入：33,000円 (3,000円 x 11名)

- 2017/9/29 コミックシーモアが見た電子書籍市場の変遷
- 第1部：「電子書店動向」
鷹野凌氏 (フリーライター/NPO 法人日本独立作家同盟理事長)
- 第2部：「コミックシーモアが見た電子書籍市場の変遷」
加藤 公隆氏 (NTT ソルマーレ株式会社 取締役 電子書籍事業部長)

- ・参加者計：118（会員：69、非会員：43、招待・取材：6）
セミナー収入：129,000 円（3,000 円 x 43 名）

2017/11/15 LINE マンガとコミック動向

第1部：「電子コミック・コミックアプリ動向」

落合早苗氏（O2O Book Biz 株式会社 代表取締役）

第2部：「スマートフォン時代におけるスマホマンガサービスの最新動向と、LINE マンガが目指す“マンガエコシステム”について」

村田 朋良氏（LINE 株式会社 マンガ事業部）

- ・参加者計：101（会員：80、非会員：17、招待・取材：4）
セミナー収入：51,000 円（3,000 円 x 17 名）

2017/11/22 朝日新聞メディアラボの取り組みと人工知能研究

田森秀明氏（朝日新聞社メディアラボ 主査、博士（情報科学））

- ・参加者計：89（会員：69、非会員：19、招待・取材：1）
セミナー収入：57,000 円（3,000 円 x 19 名）

2017/11/30 時間軸で情報を眺める検索エンジン「TIMEMAP」

高野明彦氏（一般社団法人タイムマップ代表理事、国立情報学研究所教授）

阿辺川武氏（国立情報学研究所特任准教授）

井芹昌信氏（一般社団法人タイムマップ理事、インプレス R&D 代表取締役）

- ・参加者系：44（会員：32、非会員：12）
セミナー収入：36,000 円（3,000 円 x 12 名）

2017/12/19 電子出版アワード大賞選考会 パネル討論：今年の電子出版トレンド

- ・電子出版市場動向：落合 早苗氏 O2O Book Biz
- ・電子出版海外動向：中島 由弘氏 フリーランスエディター
- ・電子出版技術動向：馮 富久氏 技術評論社
- ・司会・進行 井芹 昌信 JEPA 理事（インプレス R&D）
- *会場：教育会館

*特記ない限り会場は、麴町 紀尾井町ビル 4F パピレス大会議室 となります

2017 年度広報委員会総括

- 1) JEPA サイトへの訪問者倍増計画の継続
 - ・具体策として、「ebookpedia」等コンテンツの検討・実施
 - ・その他 アクセス確保のための施策を検討・導入

→ ebookpedia のフェイズ 2 を実行。50words→100words へ。
総 PV の 29%を占め、サイト内コンテンツでトップ。前年の 16%より一気に増加した。(

→ JEPA サイトの年間 PV は 11%増。平均滞在時間 4%増、直帰率 9%減と一定の成果は出ている。

→ その他、30 周年記念ページの維持、facebook フォローの増加施策 (いいね! 506 名→634 名)

- 2) JEPA 入会促進につながる広報プランニング
 - ・入会促進策としてパンフレット等の具体的検討を行う。

→ (パンフレットは、昨年実施。)

→ 9 月。会員社のニーズを把握するため、会員社アンケートを実施、111 人が回答。理事間で共有した。

- 3) JEPA 電子出版アワード 2017 の実施運営
 - 12/19 表彰式実施。大賞は、「絵本ナビ」。

- 4) 「JEPA クロニクル増補版 (仮)」の発行など 30 周年記念事業の広報とサポート
 - 増補版の発行は、2018 年度に持ち越しとなった。

●セミナー実績

JEPA の 2017 年度 24 本のセミナー中、以下の 7 回を企画・運営。

- ・2017 年 2 月 23 日 教育 ICT：イギリス最新動向 2017
- ・2017 年 3 月 17 日 JLREQ の今日と明日、そして CSS 日本語組版
- ・2017 年 4 月 14 日 30 周年記念：鈴木雄介氏「私の電子出版」
- ・2017 年 5 月 11 日 映像で見る精興社の活版印刷(日本語組版の原点)
- ・2017 年 6 月 8 日 マイクロソフト新ブラウザ Edge とその EPUB 機能
- ・2017 年 10 月 24 日 電子出版アクセシビリティの現状と課題
- ・2017 年 12 月 8 日 Advanced Publishing Lab. 報告会

●ICT CONNECT 21 (略称 ICON、JEPA として参加)

- ・LRM(Learning Resource Meta-Data) SIG、単元 ID 構造の標準化

●eLearning Awards Forum (JEPA から実行委員、最終選考委員として参加)

- ・コンファレンスで、電子出版トラックを企画、運営
2017/10/26(木) 9:30～11:00 (90 分間) 120 名会場 金原会長
2017/10/27(金) 9:25～10:55 (90 分間) 120 名会場 英語教育：旺文社/学研/イースト
- ・「日本電子出版協会 会長賞」の授与。JEPA の負担は選考作業のみ。賞状も eLAF が用意。
2017/10/25(水) 会長が賞状を授与

●日本 IMS 協会 (JEPA から理事、運営委員として参加、JEPA は IMS の正会員)

- ・毎月、運営員会を開催
- ・理事会：白井理事長、大久保/岸田副理事長、はが、山田、ロブ(IMS CEO)、下川

●Advanced Publishing Lab(APL) 慶應 SFC+講談社/小学館/集英社/KADOKAWA/デジ機構

- ・JEPA として運営に協力(下川：広報リーダー) 来年度予算、策定中
- ・理事会 村井先生、出版各社役員、吉井さん、W3C 吉澤さん
デジ機構：新名社長、JEPA：下川はオブザーバ参加
- ・ホームページ制作中 aplab.jp
- ・Github 上で公開、<https://github.com/Advanced-Publishing-Laboratory>
- ・EPUB 仕様書翻訳 <http://imagedrive.github.io/spec/>

●故長谷川会長の JST「情報管理」のコラム、リンク集を作成

1997 年～2016 年「日本の電子出版 30 年の軌跡」まで
<https://sites.google.com/view/sarumaruhideki/> の「JST 情報管理」

以上

■■■2017年度 JEP A 著作権委員会活動報告

■ JEP A 著作権セミナーを 30 周年記念講演として開催

講演テーマ：『Google Books 裁判の総括と日本のナショナルアーカイブ戦略』

日時：2017年3月15日（水）16時～18時

会場：森・濱田松本法律事務所セミナールーム

講師：松田政行弁護士（森・濱田松本弁護士事務所）

「米国 Google に知の独占を許して良いのか！世界のありようは地政学的支配から情報学的支配に移行する。日本の芸術・文化、科学・技術、歴史認識、安全保障……は、国家単位のナショナルアーカイブの構築に掛かっているというべきである」。11年にわたった Google Books 裁判を総括し、そこから導き出されるナショナルアーカイブ戦略を、米国の Google、日本の国立国会図書館と対比して論じる。

■ 著作権入門セミナーを7月5日・12日に開催

今年も、eBP（電子書籍を考える出版社の会）と共催で実施。

講師：村瀬拓男弁護士

会場：紀尾井町ビル4階パピレスセミナールーム

- ・第1回：「著作権制度の基礎」 7月5日（水）15時～17時

著作物とは何か、著作権はどのように生まれるのか、著作権はいったいどのような権利でどのような場面で働くものなのか、著作権者の許諾なく著作物を利用できるのはどのような場合なのか、といった著作権制度の基本的なところを、実例を挙げながらなるべくわかりやすく説明。あわせて、商標法、意匠法、また不正競争防止法などといった、著作権と関連する知的財産法制度についても触れる。

- ・第2回：「著作物の契約実務と権利侵害への対応」 7月12日（水）15時～17時

電子出版をめぐる著作権法その他の法律環境は大きく変化してきた。また、新たなビジネスモデルが次々と導入されるにつれて、契約実務でもこれまでとは異なる検討事項や注意点が必要になっている。さらに、デジタル海賊版被害も到底看過できないレベルになってきた。これらの新しい課題に対応するための、基本的な知識、実務対応を整理するとともに、法改正の動きなどについても説明する。

■ 著作権セミナー「使える、使えない、権利処理の境界線」開催

講師：鈴木道典（マイクロコンテンツ）、村瀬拓男弁護士

会場：紀尾井町ビル4階パピレスセミナールーム

日時：10月11日（水）15時～17時

講師の鈴木道典さんは、マイクロコンテンツという会社を起業して、紙の本の電子化にあたっての権利処理などを仕事にしている。その過程で、いろいろな権利処理の課題に遭遇したことを事例として紹介。村瀬拓男弁護士は、出版社社員から弁護士に転身した経歴から、出版に関連した法律の分野で活躍している。鈴木さんが提示してくれる権利処理の課題に対して、法律家として助言してくれる。

■ 著作権委員会のメンバー拡充と委員会の定期開催

- ・2017年は、新メンバーが4名増え、奇数月に委員会を開催するようになった。
- ・委員会の討議をもとに今後セミナーなどの企画を立てていく。

ビジネス研究委員会 2017年活動報告

委員長 岡山将也

1. 2017年活動報告

● 第1回 ワークショップ「版元大集合…この先10年を語る茶話会！」(6月21日実施)

JEPAに集う出版社スタッフが、電子出版(電子化、販売、制作など)について、どんな関心、課題、悩み、展望を持っているかを意見交換し、ビジネス展開の刺激になる場を提供することを実施。版元、販売会社などから15名参加。 Biz研合わせて27名のワークショップになった。 辻本委員から米国の最新動向の簡単な紹介を皮切りに、各社に自由に意見を言って頂いた。

1. 電子の担当は一人もいない。紙の文化からシフトしないと。お金を見るのは販売(営業)だけ、他のセクションはお金に触れる機会がない。デジタルはみんなお金のことを考えないといけない。
2. 書籍を電子化するのが、時間がかかる。モノがあるとやった感がある。
3. 電子で反応がいい物だけを紙にしておく。現状は支障がない限り、紙と電子を両方だしている。
4. 電子化率が低い。社内の壁、電子出版数で、セクショナリズムの壁が厚い。

等々の実際の現場の声を聴くことができた。これ以外にも、取次の存在意義、取次と出版社の関係、再販制度に関する事、対アマゾン対策、社員の意識改革の話など、文章に残せないハードな内容も多く議題として提起された。これらを打破するための議論を開始したが、やはり2時間では少なかった。次回のワークショップ企画に生かしたい。ワークショップ終了後、ほとんどすべての人が懇親会に参加して頂き、大いに盛り上がった。

● 新しいコンテンツ流通についての意見交換会の実施(7月19日実施)

ゲストに、鈴木道典さん(マイクロコンテンツ 代表取締役社長/元有斐閣常務取締役)を招いて「マイクロコンテンツの提案する新しいソリューション」の紹介をもらった。

- (1) バーチャル書棚による「自社本等閲覧システム」(新たな著作権処理の不要な方法についても含む)
- (2) 暗号化・期限付きpdfファイルによる「書籍紹介・“献本”サービス」

議論では、書籍流通の大きな曲がり角であり、電子に移行するためにも、書店や出版社をどうしていくかを考えていけないといけない。鈴木さんのソリューションは、1つの考え方。電子書籍ってというのは、紙ベースと違う仕事。それに気づいていない。電子の本もけっこう売れる、紙より電子の方が楽なのではないかという様々な意見もあった。また今後の予測として、出版業界のガラガラポン(取次崩壊など)になったら、連鎖倒産してしまうので、それがいいかどうか、それを助けるかどうか。出版社もM&A、コングロマリットになったほうがいいのかどうか等のホットな話題も出た。

① 第2回 ワークショップ「版元大集合…この先10年の出版を語ろう! 茶話会2.0」(11月15日実施)

第1回の継続版として実施。第2回目は第1回目の反省を考慮し、3チームに分かれて、個別テーマで議論。それぞれのチームで話合った結果を、発表し、合同ディスカッション。参加した方々が議論に参加し、とても盛況なワークショップとなった。主な意見は以下の通り;

- ✓ 電子書籍のプロモーションネタとして、「よくやっている版元では編集者が積極的に情報発信をやって、ネットを使った周知を上手にやっている」という話題がでた。
- ✓ 紙なのか電子なのかは関係なく、「作品」がいかに現代の情報流通の中で効果的に読者に届いていくのか、いう点こそが重要ということの指摘があった。
- ✓ 読者と作品との出会いの場が、かつては宣伝・広告、書店の棚や雑誌や新聞の書籍紹介だったものが、今はネット空間に取って代わったことを考えれば、出版社(編集者)としてはまずそこでどう振る舞うかが勝負であろう。
- ✓ それをやらずに、「本が売れない」「ネットにやられてる」「電子は売り方がわからない」と言っているようでは、言っている本人が問題かもしれない。
- ✓ 出版社の営業は、書店をはじめとする(もちろんネット戦略も含め)読者と作品をつなげる方策を創造し、工夫していくことが営業の仕事ととらえて、編集者とともに人々に働きかけていくということが課題
- ✓ もうすでにAmazonやYoutubeに支配されている。Amazonより便利なものを作るしかないだろう。
- ✓ 「バズる戦略」をどうやって社内体制を作っていくか? 7

- ✓ 経営者が指示できていない。編集者が一番えらい状態を打破する必要がある。
- ✓ 経営が電子を作ると強く指示しなければいけない。

② 視覚障害者向けコンテンツ提供スキームの確立

JEPA30周年特別プロジェクトの一環として、リファレンス委員会の永田委員長と協力して、視覚特別支援学校の生徒に向けた、教材としてのテキストデータ提供スキームについて検討し、「どのようにデータ提供を依頼すればよいかかわからない」特別支援学校と「どのような条件で契約を結ばよいかかわからない」出版社の橋渡しとなるべく、契約書の作成及び契約書に基づくデータ提供を実現し、「視覚障害者向けコンテンツ提供スキームのひな形」として公開した。

第一弾は、旺文社殿と筑波大学附属視覚特別支援学校殿との契約によるデータ提供。

以下は、筑波大学附属視覚特別支援学校から旺文社社長の生駒さんに送られた御礼文です。

① 普通科生徒

この度は僕たちには英語の単語集・熟語集をくださったこと本当に感謝しております。我々視覚障害者にとって、勉強は文字が見えにくい分、健常者の人たちより時間がかかり、単語集・熟語集は特に文字が小さく読むだけでも普通の何倍も時間がかかります。しかし、データとしていただくとができる自分の日やすい大きさにして印刷することができ、かさばるものの、効率は何倍も良くなり、目の疲れも抑えられとても助かるのです。僕は来年になれば受験を控える身となります。単語集・熟語集が必要になったときどうしてもこの壁にぶつかりますが、この度のご支援にはとても助けられています。単語や熟語と、例文や、日本語訳が一つの塊として見ることができ、とても見やすい構成で障害者の僕でも読むことに苦労しません。このいただいた単語集・熟語集を活用しこれからの勉強に励みたいと思います。本当にありがとうございました。

② 高等部2年の生徒

この度は、ターゲットの単語・熟語を提供して頂きありがとうございました。私の見え方は、矯正視力がともに0.08ほどで、遠くが見えにくく、近づいても見えにくいことがあります。文字に関しても、普通教科書は読みにくいため、拡大教科書の22Pを使っています。今回頂いたものは、22Pでゴシック体なので、私としてはとても読みやすいです。単語・熟語、意味、英文という順番になっていて、一つ一つが読み取りやすいです。また、英文は一つの単語・熟語のそれぞれの意味を用いた例文が載っていて、分かりやすいです。頂いたものを活用して、これから英語の勉強に励みたいと思います。重ねてではありますが、この度はターゲットの単語・熟語を提供して頂きありがとうございました。

③ 高2弱視男子

いただきました英単語・熟語活用の冊子は、関連性のある単語がまとめて載っているので、英単語を覚えていくと、それに関連した単語も覚えられるのでうれしいです。また、その英単語の例文は少々難しいですが、活用法がわかるので助かります。

④ 高3弱視男子

この度は、英単語集、熟語集の拡大コピーにご協力いただき誠にありがとうございます。これまでは、手に入れた参考書をルーペを使って読んでいたため、文字が小さいと読むのに多くの時間をかけなくてはいけませんでした。拡大版をいただいたことで、読みやすく、学習しやすい環境が整っただけでなく、短時間で多くの情報が入るようになりました。この度、私は英検準1級を受験致しますが、試験に向けても大変参考になっております。今後どうぞよろしくお願ひ致します。

このほか、筑波大学附属視覚特別支援学校の宇野教諭からは、「高校生の英語文法書もあれば勉強がはかどるのですが・・・」と要望を頂いております。

是非、協力頂ける出版社がありましたら、岡山か永田さんにご連絡頂ければ幸いです。

どうぞよろしくお願ひいたします。

1 定例委員会

- 定例委員会を7回開催。メーリングリストも活用し、辞書ビジネスをとりまく様々な環境の変化について情報共有と意見交換を行なった。
- IEC62605改訂(2018年)に関連し、JEITA(一般社団法人電子情報技術産業協会)とのリエゾンのもと、IEC TA10/TC100での仕様検討に着手した。
- セミナー企画「AIに辞書編纂はできるのか」「出版企画におけるインバウンドとアウトバウンド」について、意見交換を行なった。

1.1 委員会メンバー

委員	飯塚 利昭	特別個人会員	委員長	永田 健児	デジタルアシスト
委員	片岡 正弘	富士通	委員	那須 文隆	旺文社
委員	金川 浩	小学館	委員	橋爪 亮介	JTBパブリッシング
委員	木村 一彦	大修館書店	委員	福士 学	旺文社
委員	三瓶 徹	JEPA 事務局長	委員	松本 千晶	研究社
委員	関戸 雅男	研究社	委員	吉田 兼一	小学館
委員	高野 郁子	三省堂			

2 ワークショップ

- 若手辞書編集者を中心とした勉強会を毎月1回、計12回開催した。
- メーリングリスト(参加者47名)のほか、ポータルサイトも作成。情報共有と意見交換の場を提供した。

第2回「辞書データのマネタイズを考える」 1月23日、デジタルアシストで開催。4社6名参加。

第3回「編集工程をもっとデジタルに!」 2月27日、デジタルアシストで開催。ゲストに講談社学芸クリエイトの林辺代表取締役。6社9名参加。

第4回「紙の辞書だってまだまだ進化中」 3月14日、小学館で開催。7社16名参加。

番外 榎尾俊雄発明記念館「学びと遊びの電卓・電子辞書展」見学 4月13日。4社12名参加。

第5回「機械翻訳とAIの時代に備えて」 4月19日、研究社で開催。7社14名参加。

第6回「第二外国語辞書、どうしましょう?」 5月17日、大修館書店で開催。7社10名参加。

第7回「アプリ時代の辞書編集」 6月8日、旺文社で開催。ゲストに物書堂の廣瀬代表取締役。7社20名参加。

第8回「教育現場での辞書活用事例から」 7月21日、ネットアドバンスで開催。ゲストに中部大学の関山准教授。7社21名参加。

第9回「辞書引き学習法が目指すもの」 8月21日、公文教育研究会で開催。ゲストに中部大学の深谷教授。13社23名参加。

第10回「辞書放談:第1~6回の振り返り」 9月14日、三省堂で開催。ワールドカフェ形式。16社26名参加。

第11回「辞書鼎談:辞書出版のタブー再考」 10月6日、Glocal Caféで開催。研究社の関戸社長、旺文社の生駒社長、永田の鼎談。16社31名参加。

第12回「漢字辞典の今までとこれから」 11月10日、KADOKAWAで開催。ゲストは『新字源 改訂新版』編集担当の坂倉氏。14社30名参加。

第13回「学習辞典と一般辞典の境界線」 12月13日、研究社で開催。ゲストは大修館書店の森田氏と研究社の鈴木氏。15社31名参加。

JEPA 電子図書館委員会 2017 年度事業報告（案）

JEPA 電子図書館委員会

1. 委員構成（50 音順）

- | | | | |
|--------|------------|---------|----------------|
| ・天谷 幹夫 | パピレス | ・宇田川 信生 | 紀伊國屋書店 |
| ・岡山 将也 | 日立コンサルティング | ・金原 俊 | 医学書院 |
| ・三瓶 徹 | 事務局長 | ・鈴木 秀生 | 学研（ブックビヨンド） |
| ・高野 郁子 | 三省堂 | ・中山 正樹 | JEPA 顧問 |
| ・堀 鉄彦 | | ・松田 真美 | 医学中央雑誌刊行会（委員長） |
| ・柳 明生 | イースト | ・山岡 功 | 大日本印刷 |

2. 2017 年度（2017 年 1 月～12 月）活動計画

- ①電子図書館システムのビジネスモデルの研究
- ②デジタルコンテンツのメタデータや書誌データについての研究
- ③障害者が活用できる電子図書館の研究と提言
- ④ナショナルアーカイブ構想等についての研究
- ⑤電子図書館をテーマにした催し物の検討
- ⑥その他、目的達成に必要なこと

3. 2017 年度（2017 年 1 月～12 月）活動報告

- ①事務局にて定例会を 10 回実施（1/12、2/9、3/9、4/13、5/11、7/6、9/14、10/12、11/10、12/15）
- ②「国立国会図書館による有償の電子書籍・電子雑誌等の収集と閲覧提供についての提案」を策定
- ③大向一輝氏（国立情報学研究所）と意見交換
- ④順天堂大学医学メディアセンター見学会を実施

以上